

施策評価選定シート

総務

分科会

評価対象施策	(施策D1-3) 都市農業の振興による農からのまちづくりの推進
選定テーマ	都市農業振興を通して、活気と魅力を感じるまちづくり
選定理由（100字程度で）	担い手・後継者不足や相続問題等、都市農業者が抱える問題は深刻で、それら要因からくる農地減少も大きな課題である。官・民・大学等の更なる連携による農産物活用や市内都市農業の存在意義等の情報発信・取り組みは充分なのか、明年「農業振興計画」改訂時であることから評価対象とした。
選定テーマに関する事業 【評価対象施策内】 (事業費(千円))	<ul style="list-style-type: none"> ①体験農業 ②農業ウォッチグラリー ③援農ボランティア講習会 ④都市農業推進補助事業 ⑤市内農産物及び特産品販売促進業務事業 ⑥家庭菜園推進事業 ⑦ふるさと多摩夏まつり補助事業
選定テーマに関する事業 【評価対象施策外】 (事業費(千円))	
評価のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ①農業者の現状把握はなされているか ②各事業の取り組み状況 ③課題の認識
備考	

目指すまちの姿	
評価対象施策	
施策の目指す姿	
選定テーマ	
評価のポイント	

選定テーマに関する事業 【事業No. 】		事業費 ○○○ 千円
-------------------------	--	------------

評価項目	評価の視点	評価
有効性	1 前年度と比較し、事業効果は上がっているか	
	2 事業目標は達成できているか	
	3 事業目標は適切に設定されているか	
	4 成果指標は事業効果を測るのに適切な指標か	
費用対効果	1 経費削減の観点から、実施方法は適切か	
	2 サービスの内容・質の観点から、実施方法は適切か	
	3 事務の合理化は実施されているか	
	4 利用者負担は適正か	
持続可能性	1 今後の市民ニーズは増えていくか(需給見通し)	
	2 継続のための一般財源支出は適切か	
	3 持続的な運営のための合理化が実施されているか	
	4 財源総体が減っても、継続して行うべき事業か	

事業の方向性	(推進・改善・現状維持・縮小・廃止)から選択	推進
--------	------------------------	----

※ 「会派用 施策評価シート『1. 選定テーマに関する事業 テーマ達成のための優先度』の記載」について

推進・改善	→	上位
現状維持	→	中位
縮小	→	下位
廃止	→	廃止

事業評価コメント(200字以内)

会派用 施策評価シート
【選定テーマに基づく施策評価】

会派:

目指すまちの姿	
評価対象施策	
施策の目指す姿	
選定テーマ	
評価のポイント	

1. 選定テーマに関する事業

No.	評価対象事業	テーマ達成のための優先度
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		

2. 選定テーマの観点からとらえた施策の評価

評価	評価
評価A	施策は、この方向ですすめる
評価B	施策の改善・見直しが必要
評価C	施策の抜本的、見直しが必要

3. 選定テーマの実現に即した施策の分析

(800字程度で記述すること)

分科会用 施策評価シート
【選定テーマに基づく施策評価】

総務分科会

目指すまちの姿	働き、学び、遊び、みんなが活気と魅力を感じるまち
評価対象施策	D1-3 都市農業の振興による農からのまちづくりの推進
施策の目指す姿	市民の農業への理解を高め、安定した農業経営と農地の保全がなされるために、地産地消や食育に関して様々な活動が展開されるとともに、市民が様々な形で「農」に触れあい、魅力と活力ある農業により担い手も確保されています
選定テーマ	都市農業振興を通して、活気と魅力を感じるまちづくり
評価のポイント	①農業者の現状把握はなされているか ②各事業の取り組み状況 ③課題の認識

1. 選定テーマに関する事業

No.	評価対象事業	テーマ達成のための優先度	コメント(50字以内)
1	体験農業	上位	事業名がわかりにくい。たとえば「子ども体験農業」としてはどうか。PRを幅広く一般に行うべき。
2	農業ウォッチングラリー	上位	援農ボランティアにつなげるための工夫や周知に努めるべきであり、開催時期等の工夫・検討を。
3	援農ボランティア講習会	上位	募集期間、広報の見直し及び、農家とのマッチング等も含め、行政から民間・第三者に移行できるか研究を。
4	都市農業推進補助事業	上位	計画的な資機材購入を促すと共に、補助の検討、執行状況・成果等の内容がわかりやすくなるよう改善を求む。
5	市内農産物及び特産品販売促進事業	上位	地場農産物及び、アグリアグリ自体のPRをもっとすべき。アクセス数など、成果指標に工夫を求める。
6	家庭菜園推進事業	中位	土地の確保に課題がある。管理料適正化が必要。この事業の在り方自体の検討等も必要。
7	ふるさと多摩夏まつり補助事業	上位	金額的には妥当と考えるが、多摩市産の朝顔であることのPRと、市民参加型のイベントを考えてはどうか。

2. 選定テーマの観点からとらえた施策の評価

評価A	施策は、この方向ですすめる	評価
評価B	施策の改善・見直しが必要	B
評価C	施策の抜本的、見直しが必要	

3. 選定テーマの実現に即した施策の分析、および、選定テーマからとらえた、施策のさらなる推進に向けての提案

(①②について合わせて1,200字程度で記述すること)

<p>①選定テーマの実現に即した施策の分析 「都市農業振興基本計画」が閣議決定され、都市農地は都市にあるべきものと位置付けられた。その為、多摩市内の農地保全も、災害時の避難対策・食の確保・里山風景を守る等の理由から公益性があり重要である。一方、農地面積の減少や、後継者・担い手の不足が深刻化し、相続時の問題など農家戸別の課題克服も共に問われている。また、施策名に「農からのまちづくり」とあるが、現状は「農あるまちづくり」の域を出ていない。</p> <p>②選定テーマからとらえた、施策のさらなる推進に向けての提案(総括) ●各事業について ◆「体験農業」は、実態に合わせて例えば「子ども体験農業」とし、幅広い親子にPRを広げるべきである。◆「農業ウォッチングラリー」は、現在秋に行っているが、夏の開催要望等もあり、開催時期等の工夫・検討を要望する。援農ボランティアにつなげる工夫や周知にも努めるべきである。◆「援農ボランティア講習会」は、平成27年10月より始めた事業であり、当面行政の直接的関与は必要と考える。しかし、将来的には農家とのマッチング等も含め、民間・第三者に移行できるよう研究を進めること、また募集期間、広報の見直しの検討を望む。◆「都市農業推進補助事業」は、行政・農協・農家の連携を密にし、営農計画の把握に努めることが必要だ。実情に応じた補助となるよう、さらなる取り組みを期待し、決算事業報告書の資料については、執行状況・成果等の内容がわかりやすくなるよう改善を求める。◆「市内農産物及び特産品販売促進事業」は、ホームページ「アグリアグリ」の投稿数の増加は評価するが、「アグリアグリ」自体まだまだ知られておらず、地場農産物と共にPRに努めるべきである。また、サイト内ブログのアクセス数等で効果の把握に努めることも要望する。◆「家庭菜園推進事業」は、土地の確保に課題がある。借上料に対して、管理料の見込みは現状50%を切っているが、激変緩和措置を考慮しつつ、適正化が必要だ。また、この事業のあり方自体も今後の検討課題ではないかと考える。◆「ふるさと多摩夏まつり補助事業」は、市内産朝顔のみで行っていることは貴重であり、朝顔生産農家のご苦労を考えると、さらなるアピールが必要だ。また、事前のふるさと体験や市民朝顔コンテスト、朝顔写真展など、市民参加型のイベントを考えてはどうか。</p> <p>●施策全体について 軒先販売の持ち去りや、田畑への不法投棄がある現状、市民に都市農地の意義や市内農地の存在をもっとアピールすることが必要だ。それを通じて地産地消の大切さを知ってもらい食育につなげるべきである。「多摩市農業振興計画」の改定が予定されている。この機会に今後市として農地保全、農家の収入アップにつながる特産品開発・研究、農福連携等が必要だと考える。また、他部署との連携や担当部署の課題解決の為、人員体制の検討等も必要である。農地保全を求める立場から生産緑地利用の促進について、国の情勢も見据えながら、市による国へのさらなる働きかけを求める。</p>
--

施策名	都市農業の振興による農からのまちづくりの推進	
選定テーマ	都市農業振興を通して、活気と魅力を感じるまちづくり	
議会からの提案	提案に対する取り組みの考え方	新年度予算対応
①体験農業は幅広い親子にPRを広げるべき	①児童館との連携事業であり、児童館を子育て支援拠点施設として知ってもらい、利用してもらうきっかけ作りともなることから、周知を強化していく。尚、現状としての農地や児童館の受け入れ可能人数も考慮のうえ、具体的な展開を進める。	①既存予算で対応
②「援農ボランティア講習会」について、将来的に民間に移行するとともに、募集・広報の見直しを望む	②試行的な取り組みを始めてから、平成29年度で3年目となり、多摩市版の援農のしくみとして、一定の形ができてきたところである。援農をしたい人、受け入れる側、双方の体制充実を着実に図るとともに、将来的に民間が担う運営の仕組みの検討を進める。 広報に関しては、本年11月に実施した「農業ウォッチングラリー」の参加者にPRを行った。また、募集時期に関しては、2ヶ月程度早め、2月下旬から募集を開始し、講習会で夏野菜の定植作業に間に合うようにする。	②既存予算で対応
③「都市農業推進補助事業」について、農協・農家との連携を密にし、実情に応じた補助とすべき。	③市内の農家の平均年齢の上昇や近隣自治体の実施状況もあり、多摩市農業委員会から、農器具等を「都市農業推進補助事業」の対象に含めるよう要望が出されている。平成30年度から、これらを補助対象に含める方向で要綱・要領の改正並びに予算措置を進める。なお、農器具等の計画的な整備と市補助金の有効な活用が図られるようJA等の関係機関を交えた協議を進める。	③【都市農業推進事業】 100万円(増額分)
④「市内農産物及び特産品販売促進事業」はHP「アグリアグリ」が知られておらず、農産物と共にPRすべき。	④HP「アグリアグリ」は、農に関する旬の話題を定期的に発信し、コンテンツは充実しており、一定のアクセス数を稼いでいる。 市内農業や地場野菜をアピールするためには、アグリアグリの周知に取組むことと合わせて、たま広報での情報発信、JAや委託事業者等と連携での農のイベントにより、市民が市内の農に触れる機会を設定できるよう、取組んで行く。	④既存予算で対応
⑤「家庭菜園推進事業」について、管理料の適正化が必要。また、事業のあり方自体も検討が必要。	⑤管理料については、「公共施設の使用料設定にあたっての基本方針」を踏まえ、次の利用者の入れ替えである平成31年度の改定を目途に、平成30年度に適正額について検討する。 事業のあり方については、現在進められている、生産緑地の貸借に関する法改正の動向を踏まえ、検	⑤既存予算で対応

<p>⑥「ふるさと多摩夏まつり補助事業」については更なるアピールが必要。また、市民参加型のイベントを検討してはどうか。</p>	<p>討して行く。</p> <p>⑥実施主体は、実行委員会であるので、市としても実行委員会に協力・支援をし、どのような取組みをすれば、これまで以上に市民と一体となったイベントとなるか、④の議会からの提案である「農産物のPR」とあわせ検討していく。</p>	<p>⑥既存予算で対応</p>
---	---	-----------------